



事業環境と実績

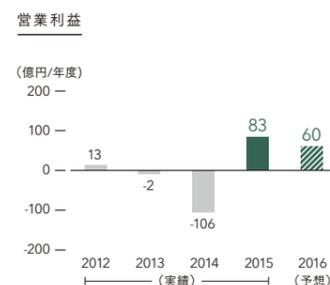
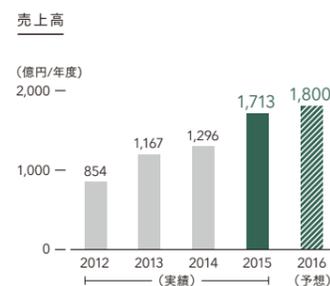
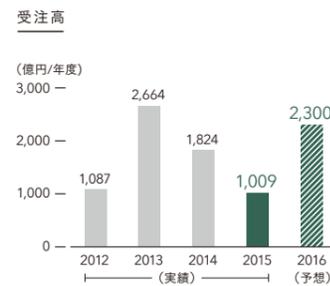
原油価格の低迷により、産油・産ガス国や大手石油会社で設備投資計画が見直されるなど、事業環境は先行き不透明な状況が続いています。当社が得意とする化学プラント分野の顧客は、石油産業の下流部門にあたり、原油安による原料コスト削減の恩恵を受ける一面もありますが、設備投資については慎重な姿勢が継続しています。一方、東南アジアでは、経済成長に伴い電力需要の拡大が見込まれており、インドネシアでは停滞していた石炭火力発電所建設計画に進展がみられました。また、環境エネルギー分野では、国内外において再生可能エネルギーによる発電事業の需要は依然として活発な状況が続いています。

このような状況のもと、英国では、Burmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S(BWSC)が2件の大型バイオマス発電所建設工事及び運転・保守業務を受注したほか、国内では2件の風力発電所建設工事などを受注しました。また、既受注工事では、プロジェクトの確実な遂行に注力しており各工事が順調に進展しました。一方、事業参画では、北海道のバイオガス発電事業及び大分での太陽光発電事業が商業運転を開始しました。

2015年度の業績

受注高は、石油化学プラントや発電土木分野でのプロジェクトの遅延や前年度に大型受注のあったBWSCの反動減などにより、前連結会計年度に比べて815億13百万円減少(△44.7%)の1,009億22百万円となりました。売上高は、米国向けおよびシンガポール向け石油化学プラント建設工事、ベトナム向け発電土木工事が順調に進捗し、また、環境エネルギー分野では、太陽光発電所建設工事が完工したことなどにより前連結会計年度と比べ416億54百万円増加(+32.1%)の1,712億70百万円となりました。営業損益は、不採算工事が完工、大型工事を確実に遂行したことにより、前連結会計年度の106億33百万円の損失から82億97百万円の利益となりました。

財務ハイライト



Our Action

中期経営計画に基づく『変革』への取り組み

Topics 再生可能エネルギー分野のEPC(設計・調達・建設)をコアとした上流・下流サービス事業を強化

○国内最大規模のバイオガス発電施設が商業運転を開始

当社と北海道別海町、中春別農業協同組合、道東あさひ農業協同組合の4社が共同で設立した特別目的会社「別海バイオガス発電株式会社」が建設を進めていたバイオガス発電施設が完成し、2015年7月より商業運転を開始しました。

本施設は、酪農家から供給される家畜排せつ物を原料としメタンガスを発生させ発電する施設で、当社が主体となって事業開発を手掛け、EPCを請負い、別海バイオガス発電(株)が施設の運転、三井造船環境エンジニアリング(株)が施設の保守を行うことで、20年間にわたり売電事業を行います。



別海バイオガス発電プラント

○大分事業所用地でメガソーラーを建設、商業運転を開始

当社と伊藤忠商事(株)、(株)九電工の3社が共同で設立した特別目的会社「大分日吉原ソーラー株式会社」が建設を進めていた44.8メガワットのメガソーラー(大規模太陽光発電施設)が完成し、2016年3月より商業運転を開始しました。

本施設は、大分事業所の約46万平方メートルの敷地を利用して建設したもので、当社がEPCを請負いました。年間予想発電量は一般家庭約9,300世帯分の年間消費電力に相当する5,250万キロワット時で、20年間にわたり売電事業を行います。



大分日吉原太陽光発電所全景

○英国向けバイオマス発電プラントの建設及び運転・保守業務を受注

2015年12月にBWSCは、英国でバイオマス熱電併給設備の建設及び12年間の運転・保守業務を受注しました。本設備は木質チップを燃料とし、発電能力は27.8メガワットで、年間223ギガワット時を発電する見込みです。

BWSCは、高効率バイオマス、バイオガス、ディーゼル発電施設の開発、建設、運転管理まで一貫した事業を世界の各地で展開しています。創業以来53カ国、175件以上の発電施設の納入実績があり、その発電容量は3,500メガワットを超えます。



クラムリントン バイオマス発電プラント完成予想図